
自信

夕焼け

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自信

【Nコード】

N6944H

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

どうにもこうにも自分に自信が持てない。自分に自信が無いから、引っ込み思案になってしまふ。自分に自信がもてなくて、世の中の様々な事柄を、人を遠ざけてしまふ。でも本当は人と関わっていきたい気持ちもある。そのためには自信が必要だ。だからちょっと自信について考えてみた。

自信を持つことはとても大事だ。

大事だ、と分かつちやいるけど、そうだと分かったからって自然と沸いてくるもんでもない。

誰だってそりや自分に自信を持ちたいと、心のどっかでは思ってるんじゃないかと思う。

そう思わない人はすでに自信がある人で。

でも、そうは言ってもなかなか自信なんてもてなくて、何かにこじつけるようにして自信を抱こうとしてもそれはやっぱりただの虚勢、虚栄心になってしまう。

それじゃ意味が無いし、そんなものは本当に辛い場面では簡単に折れてしまう。

じゃあどうすれば自信をつけれるのか、って考えてみた。

結局、自信を獲得するために必要なのは、他人なんだと思う。

虚勢と違う、確固たる自信っていうのは自分以外の誰かとの関係の中でこそ育まれるものなんだと思う。

人から認めてもらえた時、受け入れてもらえた時、欲してもらえた時、感謝をされた時、自信って自然と沸いてくる。

認めあえること。

それはすごく自信に繋がると思う。

認めてもらうには、まず相手を認める事が大事で、褒めてもらう為

には、まず相手を褒めることが大事で、でも嘘っぱちで褒めて認めてもそんなのには意味が無い。

そんな事をしたって社交辞令めいたお世辞しか返ってこない。

お世辞を言われても自信なんてつかない。

ホントに、心から認めてもらわねば。

となると、嘘じゃなく、本心で相手を認めて、褒めなきゃいけない。他人に対して、本気で認められる部分を見出せる目を、他人の褒めるべき点を見抜く目を養うこと、それを口に出して相手に伝える度量を養うことが、肝要なんだと思う。

そうやって相手を認められる人間になれば、きっと相手も認めてくれる。

無論世の中には斜に構えた捻くれものが沢山いるし、全員が全員認めてくれるわけじゃないだろうけど、それでもそういう姿勢を認めてくれる人は少なからずいるはずだ。

誰だって褒められたら嬉しい。

褒められたら自信がつく。

自分に自信を与えてくれる人を嫌う人は多くない。

だからたくさんいいトコを見つけて心から認めて褒めてあげれば、その人はきつと味方になってくれる。

自信のある人ってというのは、人より優れてるわけじゃなくて、人の優れた点をちゃんと評価できる人なんだろうなって思う。

むしろ、人より優れた部分を強調したがるのは、自信の無さの現われだ。

俺なんかまさにそうだ。

ちよっと人より上手く出来る事をこれみよがしに自慢したがる。

根本的に自信が無いからだ。

誰も喜ばない種類の勝利に今まで目が眩みすぎてた。

そんなものの為に浪費した27年は決して少ない年月とは言えないと思う。

そして俺はやっぱこれから何回も、またこの事を忘れて、無為な勝利の為に時間と熱意を注ぎ込んだりしちゃうんだろうと思う。

勝ちたい願望、認められたい願望、人より上に立ちたい願望が俺の目をきつとまた塞ぐ。

人生って思うように行かない。

努力が実を結ぶとは限らないし、どれだけ的事をしたからって、それが認めてもらえるとは限らない。

頑張ってるのに誰からも見向きもされない日々が続くと、人は少し歪む。

誰かと真剣に向き合おうとして、その気持ちを利己的に利用されて無情に切って捨てられたりすると、心は大きく歪む。

人なんて信じられなくなる。

とても辛い気持ちになる。

とても辛いから、もういつそ人を求めない人間になりたいと考えるようになる。

一人で生きてける人間になりたいと考えるようになる。

人を、認める事が出来なくなる。

斜に構えて、人のいいところを見ないようにして、むしろ否定して、

蔑むようになる。

人々を認めず、蔑んで嫌悪しておけば、人と触れ合えない日々孤独を感じないで済むからだ。

それでもしなきゃ孤独に耐えられない。

それでもしなきゃ孤独に耐えられないような脆弱な人間だから、人と接してまた裏切られる辛さより、孤独を選ぶわけだ。

そうこうしてるうちに、何故自分がそうなったのかも忘れてしまう。自分が何故斜に構えて、色んなものに対して批判的なのか。

その理由を長い年月が忘れさせてしまう。

ほんとは、認めて欲しいからだ。

ほんとはちゃんと向き合って、受け入れて欲しかった。

その気持ちが心無い人達に踏み躪られた時、人は認め合う事を拒絶するようになる。

そして自分もまた、誰かの真っ直ぐな心を容易く踏み躪れちゃう人間になる。

踏み躪られた誰かが、同じように歪んで、同じようにまた誰かを踏み躪るようになる。

そうやって連鎖してく。

向き合ってもらえないのは、自分が向き合ってもらうに価しない、無能な人間だからじゃないのか。

そんな風に自信を無くしてく。

でもそんなのは間違ってる。

向き合ってくれないのは、たまたま相手が上に書いたような「既に

歪められて認め合う事が出来なくなつた人」だつたからだ。
相手もまた被害者だつた、ただそれだけの事だ。

向き合う事の意義を知つて人間なら、そんな風に相手の自信を奪うやり方で、向き合うことを拒絶したりしないはずだ。

向き合つてもらえなかったからつて、拒絶されたからつて、自信を失くす必要なんてホントはひとつも無かつた。

それでもまた同じように自分なりの熱意と誠意を安易に踏み躪られ
たら、そういう事が何度も続けば、やっぱり俺は自衛の為に大事な
事を放り出して、人を憎んだり蔑んだりしちゃうと思う。
そうしてでもその辛さから自分の心を守ろうとしちゃうと思う。

人は弱い。

少なくとも俺は、とても弱い。

俺の周りにも、弱い人間がたくさんいる。

まずは、彼らのいいところ見つけて、褒めてやるところからはじめ
てみようと思う。

俺みたいな怠惰で根性のひん曲がつた人間には無理かとも思う。

でも、無能な人間が自信を持つためには、努力をするしかない。

だからやっぱりやろうと思う。

わざわざ読んでくれる人、コメント付けてくれる人、なんだかん
だ言つて結構そういうのに救われてる。

こんな纏まりの無い人間の、纏まりのない文章であっても、誰かに

とって暇つぶしくらいにはなるならそれはやっぱり嬉しい。

誰かにとどいてるっていう実感が無かったら、多分俺は今よりもっと人に対してネガティブな捉え方をしたと思う。

頭ぐちゃぐちゃになって、何もかも投げ出したい気持ちになっても、まだギリギリのところまで諦めたくないって気持ちを持ってるのは、やっぱり見てくれる人が一人でもいるからなんだと思う。ありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6944h/>

自信

2010年10月17日15時56分発行